

編集後記（航跡第14号）

今号から、前号までのB5版をA4版に一新し文字を大きくしました。また、同期・クラス会、クラブ・同好会の記事は原則として日付、人数、場所のみとし代わりに写真は拡大し、同窓生の寄稿・投稿を主体に構成しましたが、如何でしょうか。

来期15号では、編集人と同じ28期で理系クラスと同級生だった、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の音楽担当で、すでに世界的な評価も得ている川井憲次君の寄稿を掲載予定です。高校時代に拘らず音楽について書くように頼んであります。

東日本大震災から4年経ちましたが、いまだ多くの人達が立ち直れず過去の時間に生きているのを見るのは心が痛みます。しかし私たちは、その人たちのためにも先に進まなければなりません。おりしも今年は戦後70年に当たり、あの戦争はどのような経緯で起きどのような意味があったのか、そして戦後とは何であったのか、マスメディアで識者たちが一方的に流す意見を鵜呑みにするのではなく、皆が自分の頭で考えるべき節目の年でもあります。不幸にして起きた福島第一原発の事故によって、第二原発や女川原発では事故は起きなかったにもかかわらず、日本の原発は全て停止。隣の中国では273基が稼働予定で、近い将来に技術力の逆転が予想されますが、すでにされているという見方も有力です。太陽光発電や風力発電は天候に大きく左右され、化石燃料発電によるバックアップがなければ成り立ちません。石油や天然ガスの供給が止まれば、日本中がパニックとなり多くの人命が失われるでしょう。エネルギー安全保障 次世代原発や核融合発電の開発に伴う産業技術の波及効果 国内に製造業が生産拠点を戻す流れを止めないために安価だけではないゆらぎが微小な良質な電気の安定供給 二酸化炭素の増加による地球温暖化の阻止 といった目的のために原発の再稼働は不可避です。城南の同窓生も毎年平均年齢を上げ高齢化していく状況です。人件費などを確保できなければ医療・介護は成り立ちません。大震災の被災地の再建、被災者の救済のため、高齢者の医療・介護のためにもまず必要なのは日本の経済的繁栄で、精神的な豊かさの前に物質的な豊かさが必要です。これはあくまでも編集人の個人的見解であり、また違った考えの方も大勢おられることと思います。しかし同窓会あるいは「航跡」の存在意義は単に青春のノスタルジアを満たすだけではなく、在校時の先輩・後輩関係をリセットした忌憚のない交流にあると思います。様々なご意見をお待ちしています。

28期 永田尚之